

年間報告書 2009

同志社エコプロジェクト



Doshisha Eco Project 2009

同志社大学省エネルギー推進委員会

同志社エコプロジェクト (DEP)

〒610-0394

京田辺市多々羅都谷1-3 ローム記念館2階 RM210

TEL : 0774-65-7813

MAIL : dep.asumi@gmail.com

URL : <http://eco-pro.doshisha.ac.jp/>

2009年度 DEP活動スケジュール

	全体活動	個別プロジェクト活動
4 APRIL	新入生勧誘活動 4月全体会	【あすみ ch】第1回上映会 開催
5 MAY	5月全体会(中止) 学生環境エネルギーフォーラム (@東京大学 五月祭) COP15 前イベント (@京都市役所前)	【+E】Let' go to 里山 遊ぼう! ～ほら夏はそこにある～ →p.14
6 JUNE	6月全体会 夏の省エネ活動 開始 → p.5-8 世界学生環境サミット in ヴィクトリア (@カナダ)参加 →p.18	【あすみ ch】スタートアップ報告会
7 JULY	7月全体会 省エネアンケート実施	【広報】でっぶっぶ5号 発行
8 AUGUST	8月全体会(夏合宿) (@リトリート) →p.10	
9 SEPTEMBER	9月全体会(大阪ガス・ガス科学館見学)	【あすみ ch】ステップアップキャンプ参加 【GC】四大学(早稲田・慶応・京大・同志社)で討論開始 【+E】同志社子どもアジェンダ (@同志社小学校) ～10月
10 OCTOBER		
11 NOVEMBER	10月全体会(ADAM祭・EVE環境活動) →p.11 冬の省エネ活動 開始 →p.5~8	【あすみ ch】ADAM祭「あすみミュージアム」 【GC】環境シンポジウム
12 DECEMBER	11月全体会 省エネアンケート 12月全体会(冬合宿) →p.12 全国大学生環境活動コンテスト 2009 参加 →p.18	【広報】でっぶっぶ6号 発行
1 JANUARY	1月全体会	
2 FEBRUARY	2月全体会	【あすみ ch】番組をケーブルTV(KCN京都)で放映
3 MARCH	3月全体会 年間報告書2009作成	【あすみ ch】最終成果報告会

はじめに

同志社エコプロジェクト

年間報告書 2009

■ 2009年度の活動を振り返って…

2009年度のDEP活動は、組織設立から3年目に入り、夏季、冬季の空調温度の設定などの省エネ活動は基本的な活動として定着してきました。その他にも、学内外で様々な環境活動に取り組むことができたということは、組織としての成長の証でしょう。もともとDEPは、大学の省エネルギー推進委員会が学生とともに、効果的な省エネ活動を進めていきたいと考えて設置されました。今年度の活動の中で、設立の目的の一つである具体的な省エネ活動に取り組めたことは大学の責任者として、とても喜んでます。同志社大学は学生数も多く、広大なキャンパスを擁しています。そのため、実際に省エネ効果をあげ、大量の廃棄物を削減することは、大変困難なことです。しかし、大学と学生が連携し、目標達成に向けて取り組んでいくことで、着実に成果を上げることができると思います。また、今年度はDEPの学生が中心となり、環境問題に取り組む日本の4大学(京都大学・慶應義塾大学・早稲田大学・同志社大学)における「環境シンポジウム」を開催し、成功させたことは高く評価しています。

■ これから必要だと思う環境活動(大学の視点で)

大学は、2008年4月、環境保全・実験実習支援センターを設立し、省エネをはじめとした環境問題への取り組み、教育・研究の場の安全な環境整備をさらに進めることを開始しました。学内の省エネ、廃棄物、自然環境保全の取り組みとあわせ、地球温暖化防止など世界的な環境問題にも、本学の有する知的財産を活用していきたいと思っています。そのため、学内の教職員を学生との協力だけでなく、行政、企業、市民など社会との連携も視野に入れて、積極的な取り組みができればと希望しています。大学の社会的責任の観点からも、大学と学生が社会との連携を進め、さらに効果的な環境問題解決に向けての活動を展開していきたいと思っています。



横川 隆一

同志社大学 生命医科学部医工学科教授
省エネルギー推進委員会 委員長

■ 2009年度の活動を振り返って…

2009年度は、DEPの3本柱の「環境活動」「自己成長」「楽しさ」がしっかりと立った一年でした。まず、月に一度の全体会を12回きちんと開催出来たことは、DEPの大きな土台になりました。そして、環境活動を実践する個別プロジェクトは、昨年までは議論中心の活動でしたが、今年からはしっかりと実際に活動し、そこで学んだことはDEPとして本当に大きなものでした。全体会も個別プロジェクトも、行き違いや停滞があるため、リーダーとしてその度に話を聞いて背中を押すのが、本当に大変でした。しかし押し続けているといつの間にか驚異的に加速し、私を置いていくメンバーが頼もしくもありました。そして、何よりも全活動で常に楽しんでいたことが一番です。今年度は特にDEPには笑いが多かったと思います。DEP内恋愛なんかも。活動の基盤はやはり「楽しさ」だと実感できる一年でした。

■ これから必要だと思う環境活動(学生の視点で)

学ぶことと、継続することだと思います。学生とは社会に出るために様々なことを学ぶ人たちのことです。環境問題に関しても学生の本分を忘れないでいけば、この先自分たちが様々な分野で社会に出たときに「環境第一世代」として世の中を変えていくことが出来ると思います。環境活動に取り組む学生は目に見える成果や結果が目が行きがちですが、そのような意識を持ち、環境問題や環境活動を学ぶことが大切ですね。

そして、継続。この団体を含めて学生の環境活動を続けていくことが重要だと思います。大学生生活は、一部を除いて4年です。たった4年で社会に出ていく学生たちが、環境活動を継続するには、後継に引き継いでいくことが必要になります。実のところ、これは最も難しいことです。そして、「継続は力なり」と言いますが、継続することにこそ力が要ります。この点をしっかりと考えて環境活動を進めてほしいです。



鈴木 一登

同志社エコプロジェクト 学生リーダー
同志社大学大学院工学研究科
数理環境科学専攻 修士課程2年生

目次

01	はじめに	15	GC
02	DEP概要	17	あすみチャンネル
05	省エネ報告	18	外部イベント
09	全体会	19	しゃべり場
10	ADAM祭 & EVE環境活動	21	DEPメンバー紹介
11	合宿	22	編集後記
13	+E		



+E

+Eは、主に小学生を対象とした環境教育を行っています。プロジェクト名に含まれる「E」は、「Environment」、「Education」、「Enjoyment」の頭文字からきており、楽しみながら環境を学んでほしいという想いが表わされています。「DEPならではの環境教育を創造・実践し、『感じ・考え・動き出す』きっかけを与える。」というMissionのもと、私たちの環境教育によってあらゆる『きっかけ』を提供し、一人でも多くの人が環境に興味を持つことを目指しています。DEPの中では少人数ですが、その分メンバー間の連携はよく、和気あいあいとした雰囲気のプロジェクトです。

今後は、2009年度での経験を活かして、環境教育の質を上げていきたいと思えます。2010年度には、自然を五感で体験する「ネイチャーゲーム」の企画を進めており、さらなる『きっかけ』を提供していきたいと思えます。



あすみチャンネル

あすみチャンネルは、人々の環境問題に対する意識の向上を目指して、環境問題をテーマとしたテレビ番組を制作するプロジェクトです。同志社ローム記念館プロジェクトとして、同志社大学、(株)KCN京都、京都府中小企業技術センター、(株)ベルウッドクリエイティブの3企業の協力のもと、番組を制作しています。本プロジェクトでは、企画構成・取材・撮影・ナレーション・映像編集など、番組を制作するために様々な作業を行うため、それぞれの個性や感性、得意分野を活かした多種多様な能力を身に付けることができます。また、テレビ局の見学や実際のロケ現場の見学など、学生だけではなかなか得ることのできない貴重な経験ができるのも魅力の一つです。

2010年度からは、DEPの活動をメインテーマとして環境問題に関する映像コンテンツを制作し、DEPの知名度の向上、また人々の環境意識の向上を目指して活動の幅をさらに広げていく予定です。



広報

広報では、DEPの学内外への広報活動を一手に担っています。年間報告書の作成やHPの管理など団体の中心的な広報活動の主力となり、広報独自に学生の環境意識を高めるためにエコマガジン「でっぶっぶ」を年に2回発行しています。「でっぶっぶ」が目指すものは、どんな学生も親しみやすいエコマガジンです。これまでは料理、旅行、読書などと環境を絡めて情報を提供してきました。メンバーはこの活動を通して、記事を書いたりデザイン系ソフトを使ったりするスキルもアップしました。「でっぶっぶ」は学内外に設置されています。見かけたら、ぜひ手に取ってみてください。

今後の活動として、「同志社大学と言えばDEP!」と言われる団体を目指して、学内外に向けた広報活動を行っていきたくと考えています。また、発行部数は最低限です。紙の無駄遣いは絶対にしない、環境に配慮した広報であり続けます。



DEP理念と方針

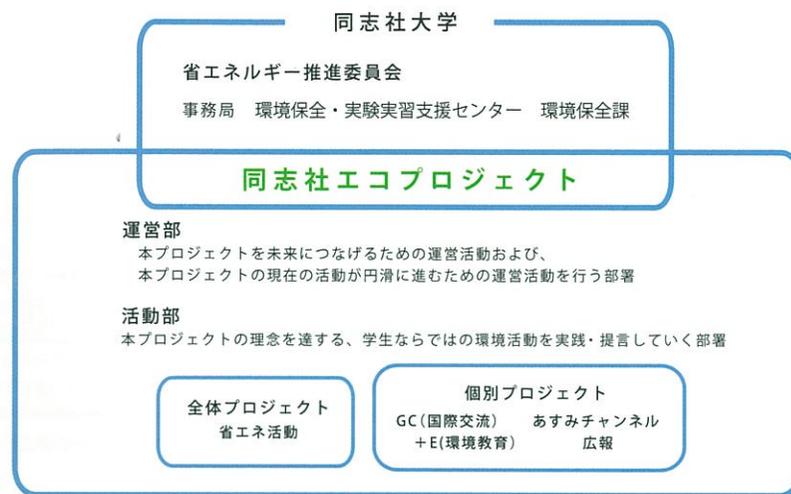
理念

同志社大学において、学生・大学が共に環境問題を世界的視野で捉え、その問題解決に向けた活動を実践していく。そして、その成果を社会に対して還元していく。

方針

「エネルギー」「廃棄物」「自然環境」の三分野に軸を置き、各分野の環境問題解決に向けて大学の特性を生かした多面的・継続的のアプローチを行っていく。

DEP組織図



個別プロジェクト

GC

GCとは、Global Communicationの略で、DEPにおいて国際的な役割を担っています。DEPの活動と世界の環境活動を送受信することにより、様々な人の環境意識・知識が向上する場を創出するプロジェクトです。環境問題は、国境を超える問題であり、国際的な情報交換や活動が必要だという想いから発足しました。環境知識・意識を持つ人がスタンダードとなり、地球人口=環境人口である地球を目指しています。帰国子女を筆頭に、長期休暇を利用して海外へ行くメンバーが多いことが大きな特徴です。また、DEP以外にもいろいろな活動に取り組んでいるメンバーが多いため、自由な発想力を持っているプロジェクトです。

2010年度は、これまでの活動の経験を活かして、DEPと日本と世界をつなげていけるような活動を展開していきたいです。さらに、同志社大学が国際化拠点整備事業(グローバル30)に認定されたということもあって、留学生も一緒に巻き込んでいきたいと考えています。



省エネ活動報告 第三章～活動内容～

実際に私たちが取り組んでいる省エネ活動を写真とともに、時系列に沿って紹介します。

企画

同志社大学での省エネ活動をDEPが大学に提案します。2009年度は夏のエアコン設定温度を28度に、冬のエアコン設定温度を20度にするを提案し、承認されました。

看板立て

各教室でエアコンを使用できる時期になると、学内のいたるところにエアコンの設定温度が夏28度、冬20度になっていることを周知する立て看板やポスターを設定します。

アナウンス

看板設置後は、登校してくる学生にエアコンの設定温度(夏28度 冬20度)をアナウンスして、学生に大学の省エネ活動について知ってもらいます。

アンケート調査

授業時間の一部を頂き、夏冬1週間ずつ、設定温度に関するアンケートを実施します。またこのときDEPメンバーは、15分間隔で教室の温度と湿度の測定を行います。

アンケート集計

このアンケート全てに目を通し、これからの省エネ活動に活かします。回答欄には省エネのためのアイデアが書き込まれていることもあり、学生の意識の高さを感じることができます。

報告書の提出

全ての結果を踏まえて、省エネ活動の報告書を作成します。大学の省エネ推進委員会に提出し、学生の声や省エネ活動の実態を報告します。

新聞にも掲載されました!

アナウンスの時に取材を受け、DEPの省エネ活動がその他の取り組みとともに中日新聞に掲載されました。



同志社大学 省エネルギー対策2009 活動報告

同志社大学では、2009年度も、引き続き省エネ活動を行いました。DEPも、大学に様々な省エネ活動を提案し、学生にはその活動の協力を呼び掛けました。順を追って、私たちの活動を報告していきます。

2009年度の成果

都市ガスの消費量	237,127[m ³]	削減!!
電力の消費量	36,634[kWh]	削減!!
DEP省エネ活動に対する学生の支持率	81.6%!!	
アンケート集計枚数	4945枚	(夏2945枚 冬2000枚)

省エネ活動報告 第一章～2009年度の私たちの取り組み～

- ・「夏のエアコンの温度を28度、冬のエアコンの温度を20度」に設定
- ・ポスターなどを使って、省エネ活動の周知活動
- ・今後の活動を推進、改善していくために学生に対してアンケート調査

省エネ活動報告 第二章～どうして省エネ活動を行っているのか～

- ・世界中で、環境問題が深刻化し、省エネ活動への注目が高まっている。
- ・同志社大学が省エネ法第一種エネルギー管理指定工場に認定されている。
- ・同志社大学の利用者はほとんどが学生。学生で省エネ活動を行う必要がある。

省エネ法において第一種エネルギー管理指定工場に同志社大学京田辺校地が指定され、同志社大学は努力目標として「エネルギー使用量が、一定値を超えた場合、エネルギーの使用効率を年平均で1%改善すること」と義務付けられました。大学の施設はその大半を大学生が利用しているため、省エネルギー化は職員だけで行うことが難しいという側面がありました。そこで、同志社大学では学生・教職員が一体となった環境への取り組みが必要であると考え、各課・各学部の代表者が集まり、省エネルギー推進委員会を立ち上げ、その中に同志社エコプロジェクトという学生団体を作ることになりました。そのため、私たちは2008年から省エネ活動を開始したのです。

省エネ活動報告 第六章～学生の声～

Q、どうして教室ごとに温度設定しないのか？

同志社大学内の古い建物では、冷暖房を一括管理していて、教室ごとの温度設定ができません。そのため大教室に合わせた温度は小教室で非常に不快な温度になります。建物の古さが致命的な欠点になっています。ただし、新しい建物では教室ごとに温度設定を可能にしています。これらの教室では、定められた省エネ温度を目安に学生の手で温度調整を行ってください。

Q、学費を納めているのに授業の温度設定まで管理されたくないのですが？

省エネ活動はあくまで、国の法律遵守のためです。よって同志社大学の関係者全員が社会的な責任のもとに省エネを行う必要があります。学生もその例外ではありません。また、大学に通う人間の9割は学生です。学生の協力なしに大学の省エネ化は成り立ちません。ご協力お願い致します。

省エネ活動報告 第七章～反省と今後の改善～

授業と省エネ活動の両立

アンケート結果からも分かる通り、エアコンの設定温度を28度にするによって、授業を受ける環境に支障をきたしてしまったと考えられます。この結果を受けて、その他の大学や省エネ活動を行っている企業の取り組みも参考にして、本当にエアコンの設定温度が28度で適切なのか、再検討していきたいです。そして、より快適な環境の中で授業を受けることができるよう、省エネ活動との両立を考えたいです。

使用電力のさらなる削減

グラフからも分かる通り、都市ガスの使用量は省エネ活動によって大きく削減することができましたが、電力の使用量は微量の削減にとどまってしまう。その反省から、来年度の省エネ活動では、同志社大学での電力消費の実態に目を向け、電力の省エネ活動にも力をいれていきたいと考えています。そのためには、大学施設の一部で試験的にLED照明を導入することや、夜間に職員の見回りを徹底して、無駄な電気の点けっぱなしをなくす努力も必要になってくるでしょう。

来年度以降も日常の些細なところから「もったいない」という気持ちを持ち続け、学内外の幅広い省エネ活動を行っていききたいと思います。

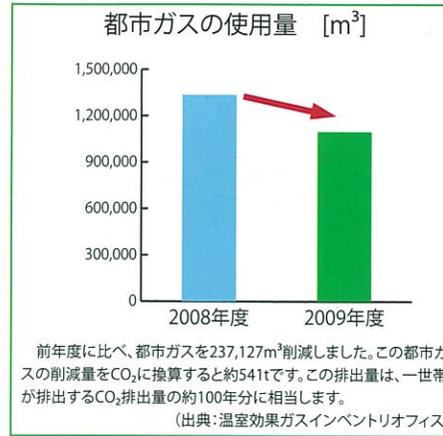
「DEPの学生の協力に関して」と「大学の省エネ推進の現状」

本学では、2008年度に全学的な省エネルギー政策の推進母体である「省エネ推進委員会」が設置され、学内省エネルギー対策の立案・実施及び実施後の効果について検証・評価を行っています。そして、本委員会のもとにDEPが設置されました。毎年、DEPの提案により温度設定（夏季28度・冬季20度）の実施を本委員会で決定し、アンケート調査も行っています。2008年度では、この温度設定のおかげで年間100tものCO₂排出量を削減できたことが測定結果により判明しており、地球温暖化防止に貢献することができました。学生主体によるこの取組の成果は学内でも高く評価されています。

同志社大学 環境保全課長 西山 幸男

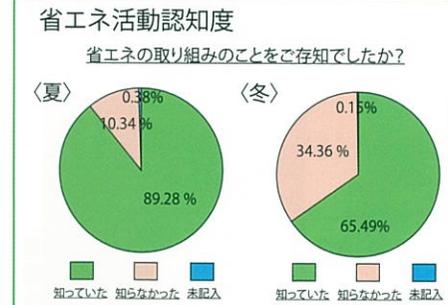
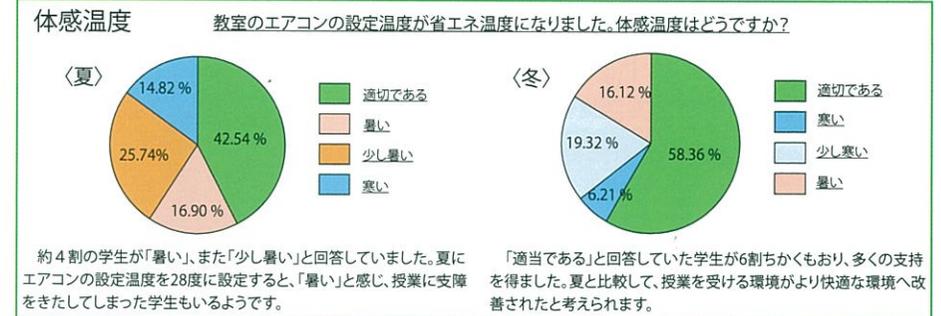
省エネ活動報告 第四章～成果報告～

エアコンの省エネの成果として、主に都市ガスの使用量と電気の消費量の削減が見てとれます。

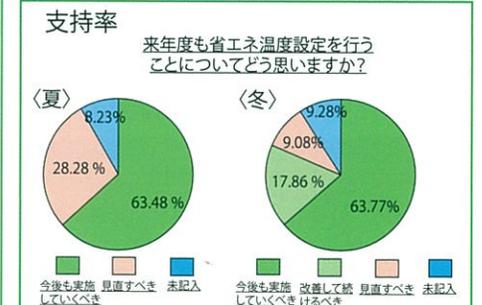


省エネ活動報告 第五章～アンケート結果～

同志社大学の学生に取ったアンケートの一部を紹介します。



夏、冬を通して約8割の学生がその取り組みを認知していました。これは、2年間継続した省エネ活動の成果でしょう。今後も学生認知度100%を目指し、省エネ活動を積極的に広報していきます。



夏の省エネ活動では、約6割以上の学生が、冬の省エネ活動では約8割以上の学生が省エネ活動に肯定的な評価でした。私たちは多数の学生の支持を大学に伝え、今年の活動で学んだ反省点を活かした省エネ活動を提案していきます。

8月 夏合宿

August - Summer Camp

合宿の2日間で、講演会・ディベート・プレゼンテーション講習・反省会という盛りだくさんのプログラムを行いました。合宿を開催するにあたり、7月全体会からDEPメンバーを6つにチーム分けし、チーム毎に合宿に向けた準備を行いました。ただ単に環境に関する知識を高めるだけでなく、チーム毎で計画を練り、議論し、行動することを通して、情報共有・レジュメ作成・議事録作成等プロジェクト運営に欠かすことの出来ない能力も磨くことが可能となりました。

目的

DEPでは、夏の長期休暇を利用し、2009年8月25、26日に、琵琶湖リトリートセンターにて2009年度の夏合宿を次の2つの能力を鍛えることを目的に実施しました。

- ①アカデミック力: 調べる力、伝える力、論理力等の環境活動をしていく上での学術的土台形成に欠かせない能力。
 - ②プロジェクトマネジメント力 (以下PJ力): ある目的を達成するために必要な過程を計画し、それを着実に実行していく力を指し、組織として活動するために不可欠な能力。
- 活動3年目を迎えたDEPではありますが、これまでこれらの力を学ぶ場が公式にはありませんでした。

ディベートとは?

- ①与えられた命題に対して賛成・反対の2つのチームに分かれ、お互いがその命題に対してなぜ賛成なのか?なぜ反対なのか?を論理的に主張する。
- ②相手の主張に対し論理的に反論を加え、その結果、どちらがより自らの主張を審判に伝えられたかを競う。

賛成のチームは、化石燃料の可採年数が限られていること、現代の社会が抱える気候変動の危険性などをポイントに主張を展開。それに対して反対のチームは、化石燃料可採年数の限界に対して疑問を呈することや、現代の社会での雇用状況を維持するには社会に急激な変化を起こせないこと等をポイントとして脱石油化を否定しました。議論は白熱し、審判を務めた講師からはディベート本番までの努力から導かれた質の高い議論であると評価されました。

「2050年に日本は脱石油化社会を目指すべしか?」を命題としてディベートを行いました。ディベートでは、どのチームが賛成にまわるか、反対にまわるか本番直前まで分かりません。従って、全てのチームが賛成からでも、反対からでも論じられるように多くのことを約1ヶ月で準備する必要がありました。



夏合宿の流れ

7月全体会

約1ヶ月

文献調査、資料作成etc

1日目 25日

12:45~ 講演会
15:00~ プレゼンタ講習会
17:30~ 夕食
19:30~ 立論作戦タイム
22:30~ 就寝

2日目 26日

7:30~ 朝食
9:00~ ディベート大会本番
12:15~ 昼食
13:00~ ふりかえり
15:00~ 全体会
17:00~ リトリート出発

合宿はNPO法人気候ネットワーク 豊田陽介氏と同志社大学 千田二郎教授の2人を講師とした勉強会からスタートしました。日本が置かれている現状について、エネルギーと政策に焦点を当て、専門的な知識を交え講演をして頂きました。その結果、メンバーの環境に対する知識もより広がることとなりました。



「講師紹介」

千田二郎 同志社大学理工学部教授
同志社大学工学部卒業後、同大学工学部研究科へ進学し、工学博士号を取得。専門は噴霧燃焼工学。



豊田 陽介氏

気候ネットワーク主任研究員。京都市環境保全活動推進センターを経て現職。共編著『市民・地域が進める地球温暖化防止』2007年芸芸出版。

「メンバーの感想」

・ディベートをやることで、伝えることの難しさを学びました。同じデータや同じ手法で主張を組み立てたとしても、伝え方の違いで人に訴える力は格段に変わりました。

・環境のデータと言っても、ただ単純に数値を見ているだけでは理解出来ないことが多いことを実感しました。そのデータが作られた背景まで汲み取って理解しなければ、データに踊らされるということがあるのだと感じました。

・合宿を充実させるためには準備期間が大事。その中で、ディベートテーマに関する連絡や、チーム内での情報共有にもっと気を遣うべきだったと思います。

同志社エコプロジェクト 全体会

Doshisha Eco Project Plenary Sessions

DEPでは、月に1度メンバー全員が参加する全体会を行っています。個々の全体会の形式やテーマはその都度異なり、毎回異なるメンバーが、他のメンバーに対して開催しています。これは、DEPの「環境を通じた自己成長プロジェクト」としての側面を強く反映し、全体会を通して環境問題を学ぶことはもちろん、運営に選ばれたメンバーは運営を経験することで成長を目指しているのです。

2009年度の全体会は、「DEPでは環境問題の勉強会が不足している」という問題意識がメンバーの間で強くあったため、年間で共通するテーマとして「勉強会」を掲げて開催しました。DEPメンバーの豊かな個性を反映したかのように、共通テーマを持ちながらも、ディベートやワークショップなどの座学から、見学会や実際の活動などの多様な形式で、環境問題への切り口も毎回全く異なった趣を持った1年間となりました。

2009年度全体会のすべて

	テーマ・内容	担当	
4月	林業に関するクイズ・ディベート	新2回生	新2回生が開催。新歓で加入したメンバーへの歓迎はもちろん、上回生に向けて成長をアピール。
5月	(新型インフルエンザに伴い中止)		
6月	環境共生のまちづくりワークショップ	今出川メンバー	
7月	夏合宿予行 (ディベート練習)	夏合宿運営チーム	(株)大阪ガスの泉北工場を見学。丁寧な歓迎をはじめ、専門的な勉強会からガスを使った科学実験など、貴重な経験を得た。
8月	夏合宿!		
9月	大阪ガス工場見学会	運営委員会	
10月	環境活動を実体験	運営委員会	夏から秋にかけての大活動期を乗り越えて、+E、GC、あずみチャンネルの大報告会を行い、それぞれの苦労や成果を確認しあった。
11月	DEP大報告会	各PJ選抜メンバー	
12月	冬合宿♪	冬合宿運営チーム	
1月	DEPの歴史&リーダー選挙	選挙管理委員会	2009年度全体会もあと2回。2010年度のDEPに求めるものは?みんなで全体会を通して考えた。
2月	2010年度全体会を考える	有志メンバー	
3月	卒業生最後の全体会	卒業生	毎年恒例となった卒業生たちによる最後の全体会。また追いコンも同時に開催。

※10,11月期はDEP全体の活動状況から、それぞれ11,12月に開催。

毎年恒例となった卒業生たちによる最後の全体会。また追いコンも同時に開催。

12月 冬合宿

December - Winter Camp

冬合宿は、1日の日帰り合宿です。しかし、講演会・プレゼンテーション大会・反省会からエココンの練習まで内容の濃いプログラムで行いました。約1ヶ月前から同じ学部毎にDEPメンバーをチーム分けし、それぞれに割り振られた環境に関する「テーマ」を「学部の専門性」からアプローチするというプレゼンを準備しました。プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力や環境知識を得るだけでなく、他学部からの多様な視点を感じ、また自らの専門をどう生かすのか見直す機会にもなりました。

環境活動って何か、という疑問を持ったときにみんなで出した答えが「ごみ」へのアプローチでした。実際の社会では、大企業の行う環境活動や環境商品ばかりがピックアップされています。しかし、最も環境に向き合った活動をしているのは、私たちのごみを回収して処分している業者であり、これに勝る環境活動はないと考えました。そこで、同志社大学が誇る2大学院「同志社京田辺祭」「同志社EVE」で、ごみの清掃や食廃棄などに関する環境活動に参加してきました。

10月 ADAM祭 & EVE

October - ADAM fes & EVE

目的

2009年度の冬合宿は、

- ①環境問題について多様な視点から見て、理解を深める。
- ②人前で話す力(プレゼンテーション能力)を身に付ける。
- ③人に上手く説明する力を身に付ける。

という目的を設定し、メンバーを学部別に分けて『LOHAS』『公害』『生物多様性』のいずれかのテーマに関するプレゼンテーションを行いました。

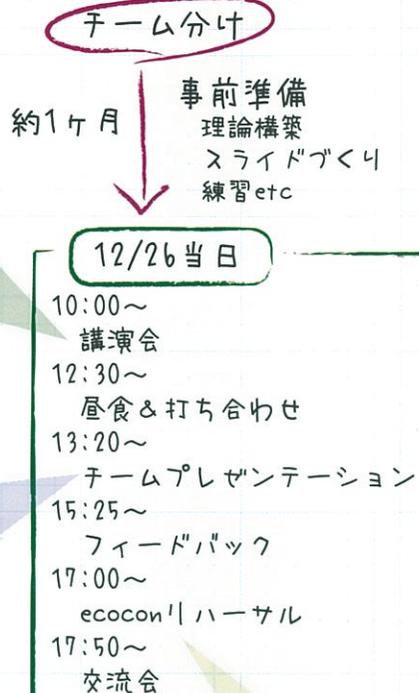
最初に、プレゼンテーションのプロである(株)Y'sオーダーの藤野さん、国際プレゼンテーション協会の脇谷さんに、プレゼンテーションに関する講演をして頂きました。藤野さんには、プレゼンテーションにおいて自分らしさを生かすことの重要性を、脇谷さんにはプレゼンテーションに向けての心構えをそれぞれ丁寧に教えて頂き、メンバーも真剣にお二人の話に聞き入っていました。



ここでは実際に、各チームで事前に準備してきた『LOHAS』『公害』『生物多様性』のいずれかのテーマのプレゼンテーションを発表しました。各チームで学部らしさを生かした独自のプレゼンを行い、皆で様々な視点からの環境の見方を楽しみ、そして学びました。またプレゼンテーション後にはフィードバックの時間を設け、当日のプレゼンテーションへの反省やこれからの目標について真剣に考え、語り合いました。



冬合宿の流れ



ecocon(P18参照)でのプレゼンテーションのリハーサルをできる限り本番に似た設定で行い、意見を出し合いました。また、1日の最後には交流会を行い、省エネ推進委員会の廣田健教授とともに食事をしました。

「メンバーの感想」

- ・とても内容の濃い冬合宿で、得るものも反省点もたくさんあった1日でした。
- ・プレゼンテーションの方法は大変参考になり、今後の生きていく中で必ずプラスになると思います。
- ・同じテーマでも、学部ごとに扱い方が違って面白かったです。

☆ADAM祭

- 日時 10月31日(土)、11月1日(日)
- 場所 京田辺キャンパス
- 活動内容
 - ・ごみ分別のお手伝い
 - ・リユース食器の洗浄
- 協力団体
 - ・同志社京田辺祭2009実行委員会

同志社京田辺祭(愛称:ADAM祭)では、同祭実行委員会「環境チーム」のお手伝いをしました。ここではリユース食器や、ごみの分別が主な活動でした。DEPメンバーは各地に回収ブースと呼ばれるごみの分別場所に行って、分別のアナウンスを行いました。また、リユース食器の洗浄にも参加しました。汚れのたくさんついた食器がどんどん溜まっていくのは精神的につらくなりますが、それでも根気強く食器を拭き続けました。

(注)ADAM祭では、エコを取り組みとして、使い捨て容器ではなく、洗浄機で洗うことで何でも使えるリユース食器が毎年導入されている。



ADAM祭2009 環境チームリーダー 高山さん



DEPの方々には当日雨が降る寒の中、一生懸命動いていただき大変助かりました。みなさんの協力もあり、当日も大きな問題なく、私たちの目指す「日本一エコな祭り」を無事に成功させることが出来ました。

関係者のコメント

同志社EVEでは、ごみの分別活動と割りばしの回収を行いました。同志社EVEはとにかくごみの多さが半端ではなく、毎日毎日ゴミとの格闘でした。学生の分別意識も高くはなく、少し油断すると燃えるごみにペットボトルや、回収している割りばしを入れられたり悔しい思いもしました。中には6時間連続で回収アナウンスを行ったつわものメンバーもいます。また、最後には悪臭、残飯の漂う流し台の清掃をEVE実行委員会の方と協力して行いました。中には気分が悪くなるメンバーもいましたが、気合いで乗り切りました。



☆EVE

- 日時 11月25～28日(水～土)
- 場所 今出川キャンパス
- 活動内容
 - ・ごみ分別のナビゲート
 - ・割り箸の回収
 - ・流し台の清掃
- 協力団体
 - ・同志社大学全学EVE実行委員会

EVE実行委員 竹内さん

2009年度の同志社EVE実行委員会では初めてのDEPのみなさんと協力する事となりました。初めての事で打ち合わせなど不十分な点があったにもかかわらず、大きな問題なく終える事ができたのは本当に良かったと思っています。今回で得られたものは今後のEVEにも活かしていくつもりです。DEPのみなさん、本当にご協力ありがとうございました。



関係者のコメント

EVE実行委員 岡田さん

EVEではごみ分別・清掃シフトを手伝っていただき、流し清掃に関して、迅速かつ丁寧に清掃が行えました。今後また協力する場合、協力によってEVEをよりよいものにするために、ミーティング回数を増やし、ごみ分別・清掃に関してスムーズな連携がとれるようにすることが課題だと思います。



10月全体会を通しての「メンバーの感想」

実際に、環境活動の「汚くて、臭くて、目立たない」部分に触れることが出来ました。ごみの分別や清掃、このような活動を行えるからこそ、DEP本来の活動にも説得力を持たせることが出来ると思っています。

+E 同志社こどもアジェンダ



○月×日 () 日 昼

導入授業



9月25日(金)

世界で起きている環境問題についてふれた後、「毎日の生活の中でムダはないか」、「身近な自然環境はどのように生活につながっているか」などをこども達に問いかけ、こども達の反応を大切にしながら授業を行いました。

まだまだ



文献調査



9月29日(火)～10月16日(金)

導入授業でこども達の興味・関心をもとに、自然環境・エネルギー・食の3つのテーマに分かれてもらい、さらに理解を深めるため自分の興味のある事柄について、インターネットや書籍等で調べ学習をしました。また同時に、アジェンダの案を出し合い始めました。

発表



目的と概要

身近な環境と世界で起きている環境問題の関係をこども達に実感してほしい。この思いを柱に+Eは2009年9月25日から10月24日までの1ヶ月間、同志社小学校5年生59名を対象に環境教育を行いました。導入授業・文献調査・現地調査をし、これらを通して学び・感じたことを、行動計画である「同志社こどもアジェンダ」にまとめました。また、それを全校に発表し、その成果を伝えました。

10月24日(土)
(練習:21日～23日)

全校生徒・保護者が見守る中、20日にみんなでまとめあげた「同志社こどもアジェンダ」を、全過程を盛り込んだ劇形式で発表しました。こども達が短い期間の中一生懸命練習したかがあり、発表は大成功。「同志社こどもアジェンダ」は、5年生だけでなく、ほかの学年にも影響を与えました。

10月19日(月)

自然環境チームは、自然とふれあうことでその大切さを、エネルギーチームは、手回し発電機を使って電球に光を灯すことでエネルギーを作ることの大変さを、食チームは、プリンスホテルで給食の残飯を見ることで残飯の多さを「実感」してもらいました。

現地調査



現地調査



あと少し



現地調査

- 先生からのメッセージ
 - とにかく+Eのみなさんの「伝えたい」という熱意に感動しました。こどもの距離感もちょうど
 - よく、みなさんのバランス感覚の良さには驚きました。とても素晴らしい取り組み、本当に
 - ありがとうございます。これからもよろしくお祈りします。
- Hardy部 5年 担任 田中 雅裕

+E Let's go to 里山 遊ぼう!

～ほら、夏はそこにある～

○月×日 () 日 昼

目的と動機

2009年5月16日(土)、同志社大学内にある里山を舞台に、「Let's go to 里山 遊ぼう! ～ほら、夏はそこにある～」を実施しました。京田辺市内の小学生3・4年生とその親を対象にし、ゲーム形式のワークショップを行いました。DEPでは、2007年度に里山の整備活動を実施しており、その里山の有効利用が企画の出発点です。自然を実際に体験・学習することを通して、楽しみながら環境に興味を持ってもらうことを目的としており、こども達は、普段あまり触れることのない自然の中で、いきいきと楽しく学習していました。

ビンゴゲーム

4×4のマスの目に、キーワードを記入してもらい、それを制限時間内に探すというゲームを、アイスブレイクも兼ねて行いました。キーワードは、「とげのある茎」、「ウグイスの声」など、植物や動物に関するもので、あらかじめ30個の学生が用意しておいたものから選んでもらいました。



図鑑づくり

植物名と特徴をヒントに、里山で植物を探し出してスケッチをし、世界に一つしかない「自分だけの図鑑」を作成するワークショップを行いました。里山内で集めた植物を貼ったり、絵を描いたりして図鑑の表紙・背表紙も作成してもらい、あらゆる感覚で自然を体験してもらいました。



当日スタッフの感想

現代のこども達が、自然に対してどういった反応を示すのか気になっていました。しかし、思いっきりしゃべりこどもたちを見て、私が想像していたほど自然に対する抵抗がないことが分かりました。それと同時に、直に自然とふれあうことで環境について考え、行動を起こすきっかけを与える教育をすることの大切さも感じました。(1回生 三河 千里)

「リーダーとしての1年を振り返って」



+Eとしては2年目となる2009年度。今年度は2つのオリジナル企画を無事成功させることができました。ゼロからの活動のため大変なことも多くありましたが、それと同時にすごく充実した時間を、先生方やこどもたち、そして大切なメンバーとともに過ごすことができました。こども達の真剣に取り組む姿には、我々学生も教えられるところがあり、私たちの行動を見直す「きっかけ」にもなったと思います。
+Eは、まだ始まって2年が経ったばかりです。これからも、さらに質の高い環境教育の創造と実践を目指し、よりたくさんの人に環境に働きかける「きっかけ」を提供していくために、活動を続けていきます。(3回生 宮城 修斗)

環境シンポジウム

～理想とする2030年の実現に向けて～

<主催> 同志社大学、同志社エコプロジェクト <共催> 財団法人コカ・コーラ教育・環境財団 <後援> 京都府、京都市、環境省、読売新聞大阪本社

2009年11月22日に同志社大学今出川キャンパスにて「環境シンポジウム」を開催しました。京都大学・慶應義塾大学・同志社大学・早稲田大学において環境活動を行っている学生21名が理想の未来を語り合い、そのために自分達に何が出来るかを話し合い、その成果を社会に広く発信しました。地球温暖化問題を含め、環境問題がますます深刻化していく中で、私たち学生がこれから果たさなければならない役目は大きくなってきます。本シンポジウムでは、そのための覚悟や熱い思いを伝えることができました。



参加学生の声

慶應義塾大学 山田 遼
私は環境活動をしています。主に体を動かすのが中心で一回立ち止まって深く考えを及ぼすという機会が少なかったです。しかし、この討論会を通じて環境問題とは何か、そして、そこから派生する問題を再び考え直し新たな発見する事ができました。

早稲田大学 木戸 優
「学生らしさ」にこだわって議論する機会がありましたが、改めて学生としての自分たちの立場や能力を見つめ直す、いいきっかけになりました!素敵な仲間とも出会え、今後の成長の糧になりそうです!

京都大学 石川 求
環境問題は人任せにして解決する問題ではありません。私たちひとりひとりが危機感を持って、行動していくことが大切だと感じました。未来を待つのではなく、明るい未来は自分たちの手でつくるものだ、この気持ちを忘れずに生きていきます。

同志社大学 井口 景介
「未来を思い描くようになった」これが討論会で得た最も大きなことです。「子供や孫の世代に何を残せるのか?何を伝えるのか?」来るべき未来に向けて、「私たちに何が出来るのか?何をすべきなのか?」それを強く考えるきっかけになりました。

参加団体探し
東京大学・京都大学・早稲田大学・慶應義塾大学・立命館大学において様々な環境活動を行っている団体に連絡を取り、参加してくれる団体を探しました。ただ、シンポジウム当日が大学の学園祭と重なったり、東京からわざわざ時間をかけて京都まで来てほしいというメンバーが揃わなかったりしたため、なかなか人数が集まりませんでした。しかし、8月に東京へ出向いて、企画の説明を行い、趣旨に賛同してもらったことでようやく参加メンバーが決定しました。



企画書の作成

何度も修正を加えながら企画書の作成を行いました。共催・後援して下さる方々に見せるため、そして他大学の団体に本シンポジウムの趣旨を理解してもらい参加してもらうために、メンバー全員で何度も推敲しました。その中でも特に時間を割いて考えた「目標」では、①環境活動をしている学生間のネットワーク作り ②国際的視点を踏まえた議論 ③各団体の活動促進化 を掲げ、討論結果の発信方法もじっくり考えました。



当日の流れ

討論するにあたり、資源・エネルギー分科会、環境教育分科会、国際貢献分科会の3つの分科会と、全体会を設置しました。そして、第1部ではWeb会議と前日に行った顔を合わせての最終討論の成果を発表しました。第2部では、国連環境計画・金融イニシアチブ特別顧問の末吉竹二郎さんに「日本の生き方 2020年若者がつくる日本の将来」というタイトルで基調講演をしていただきました。第3部では末吉さんをコーディネーターに迎え、3名の学生を含む8名でパネルディスカッションを行いました。

第1部 学生討論会の成果発表

資源・エネルギー分科会

「限りある資源を有効利用する持続可能な社会の実現のため、低炭素社会を目指し環境にやさしい再生可能エネルギーを積極的に利用すること。」そして、「ガスや電気などのエネルギーを多分に消費せず、無駄を省くこと。」この2つの政策によって大量生産、大量消費、大量廃棄の社会を今変えていくことを決意しました。

環境教育分科会

「自然との共存の意識・環境配慮の意識が高く、当然のように行動に移せる人」を育てることを「エココロの花を育てる」としました。そのために、幼児・小学生・中学生・高校生・大学生の5つの段階において、どうアプローチしていくかを考えました。また、実現のためには地域・学校・家庭・企業の協力が必要であることを訴えました。

国際貢献分科会

日本の力で貧困問題を解決へ向かわせることを、私たちが考える国際貢献としました。それは貧困が原因で環境問題に取り組めない人々がいるからです。キーワードは「自給自足」。日本国内の大量食糧廃棄の軽減、自給自足の促進とともに、世界の発展途上国が自給自足でできるだけの生活基盤を作り上げていくことで、その先にある私たちの2030年のビジョン「世界全体で環境問題に取り組む地球」に近づけると考えました。

第2部 末吉竹二郎氏 基調講演

温暖化問題は現代の短絡的、排他的な考え方が問題の根底にあると説き、将来の私たちは長期的で包含的な考えを持たなければならないと教えていただきました。そして、来る2020年の主役は今の若者たちであり、だからこそ若者が人間にとって大切な思いやりの心を持ち温暖化問題の解決に向けて行動していかなければならないと教わりました。

第3部 パネルディスカッション

学生に鳩山イニシアチブや世界の貧困問題やメディアの在り方について意見を求められました。また、コカ・コーラの環境活動やNGOの歴史を教わりました。各ジャンルの最前線で活躍されている方々から私たちの発表に対して建設的な批判をしていただき、学生のこれからの活躍が期待されていると感じました。

パネリスト	
南川秀樹	環境省大臣官房長
浅岡美恵	NPO法人気候ネットワーク代表
八木早希	毎日放送アナウンサー
千田二郎	同志社大学理工学部教授
松鷹恵市	コカ・コーラ 教育・環境財団常務理事
原山青士	早稲田大学創造理工学部1年
石川まりな	慶應義塾大学理工学部4年
田畑剛志	同志社大学法学部2年



運営準備

当日のタイムテーブル作成から始まり、当日スタッフへの説明会などを行いました。広報作業ではポスターやピラを作成し、ピラは京都市内や近畿圏の大学生に配りました。また、新聞の広告欄でも告知しました。他には学生司会者との打ち合わせや会場の舞台設営、パネリストである毎日放送アナウンサーの八木早希さんに企画説明に行きました。



11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

Web討論

Webを使って他大学の学生と3ヶ月間討論をしました。週に1度の頻度で討論を行いました。当日に近づくにつれ議論は活発になっていきました。また、3度東京へ行き、直に討論を行いました。その際に、シンポジウムで基調講演をして下さる国連環境計画・金融イニシアチブ特別顧問の末吉竹二郎さんからアドバイスもいただきました。京都ではNPO法人気候ネットワーク代表の浅岡美恵さんにも意見をいただきました。



外部イベント

世界学生環境サミット in ヴィクトリア

DEP が 2008 年度主催し開催された「世界学生環境サミット in 京都」から 1 年が経ち、2009 年の 6 月 24 日～28 日に第 2 回目のサミット「世界学生環境サミット in ヴィクトリア」がカナダのヴィクトリア大学で開催されました。18 国から 25 大学、50 人の大学生が集まり、DEP から 3 名の学生が参加しました。世界各地の大学生が環境問題のうち、今回は Energy, University Sustainability, Global Response の 3 つのテーマについて分科会に分かれて議論を行い、Outcomes Report として要旨集が完成しました。



ecocon 2009

環境活動に取り組む学生たちが集う年末恒例のイベント「全国大学生環境活動コンテスト ecocon 2009」が、12 月 26 日～27 日に東京都品川区の立正大学大崎キャンパスで行われました。北海道から沖縄まで、全国から集まった 58 の団体が日々の活動をアピールしました。残念ながら DEP は予選 2 位で本選には出場できませんでした。しかし、様々な環境活動を知り、多くの環境意識の高い学生との交流したことは今後の活動の糧になると感じました。

学生環境エネルギーフォーラム

5 月末に東京大学で開催された、学生環境エネルギーフォーラムに参加しました。この企画は、2050 年に温室効果ガスの排出量を 1990 年度比で 50%減にすべく、持続可能なエネルギー社会「SUST-ENERGY 社会」の構想を数ヶ月間に渡り話し合い、発表するものでした。東京大学をはじめ、大学でエネルギー学を専攻している学生たちが集結し、バックカスティング(※)の考え方で理想社会の実現に向けて議論を行っていきました。専門性に富んでいる他大学の学生と話すことで勉強になり、非常に刺激的な時間を過ごせました。その一方で、DEP として今後も活動を続けていく上で、エネルギーを含めた環境知識のさらなる向上が必須だと感じました。

※バックカスティング

将来を予測する際に、目標となる社会の姿を想定し、その姿から現在を振り返って今何をすればいいかを考えるやり方。
(コトバンクより引用)

COP15

2009 年 12 月 7 日から 19 日にかけて、デンマークのコペンハーゲンで開催された「気候変動枠組条約締約国会議 (COP15)」に、DEP から 2 名の学生が参加しました。各国の批准や試行を促すため、京都議定書より明確な枠組みを作るというプロセスを間近で見られる貴重な機会でした。環境問題に取り組む学生として、自分たちの行く末を決定する国際会議に参加することは非常に重要であり、環境省、外務省、UNFCCC (気候変動枠組条約) に自分たちの想いを伝えることに成功しました。

あすみチャンネル

協力企業



株式会社 KCN 京都
京都府中小企業技術センター
有限会社ベルウッドクリエイティブ

2009年度あすみch

あすみチャンネルでは、2009 年度は「身近な環境問題にかかわる番組を制作し、KCN 京都で放送する」という目標を立て、「食と環境」「ものを大切にすること」「省エネ推進 CM」の 3 つの番組を制作しました。

食と環境

【番組内容】

学生食堂の食べ残しに焦点を当て、食と環境との関係を追究しました。

【番組詳細】

「食と環境」番組では、同志社大学紫苑館食堂へ取材に行きました。利用者の少しの食べ残しは大変な量となり、その一部は水に溶けて流れてしまっていることがわかりました。水に溶けたものは木津川上流浄化センターにて適切に浄化されますが、その処理の際に汚泥が発生してしまうという問題があるとわかりました。この番組を通して、水に流してしまえば良いと考えてしまうのではなく、残さずきれいに食べるごとの大切さを再確認してもらいたいと思います。



【番組紹介】

環境にやさしい行為とは何かということを追及しました。

【番組詳細】

私たちはエコグッズとして広く使われているエコバッグに焦点をあて学生にインタビューした結果、エコバッグに対して疑問を持つ学生も多くいることがわかりました。そこで、環境にやさしいエコグッズの在り方とは何なのか、新たなエコグッズとして注目されている風呂敷専門店の掛札(掛札)に取材に行きました。風呂敷の歴史をたどっていくうちに、エコの本質に触れていきました。この番組を通して、もう一度自分の身の回りにある物の使い方について考えてほしいと思います。



省エネ推進 CM



「総務省・ユビキタス特区『環境立国』」(注)で流すための CM として、DEP の省エネ活動を例に、「エアコンの設定温度の変更など、家電の使い方で簡単に省エネ活動ができる」というものを制作しました。ベスト電器 精華台店の協力のもと、3 パターンにわけて省エネを提案するものとなりました。

(注)「総務省・ユビキタス特区『環境立国』」とは、デジタル放送を用いて家庭で使われている電気消費量をモニタリングするという実証実験です。



協力企業コメント

君たちが映像コンテンツ制作という専門的なテーマに対し工夫しながら根気よく取組んだことが、大学を卒業し社会人になったとき、そのプロジェクトでの番組企画が全てに通じる発想力として役に立ってくれることを願います。

株式会社 KCN 京都 企画部長 村瀬 一美

ADAM祭

ADAM 祭では『あすみミュージアム』と称して、2009 年度に初めて制作した「食と環境」のショートムービーを放送するとともに、番組テーマに関連したブースを設けてクイズラリーを行いました。このブースには、2 日間で合計 516 人の来場者に環境について学んでもらいました。

また、KCN 京都、Panasonic の協力のもと、「総務省・ユビキタス特区『環境立国』」で行われるテレビでの家庭内電力消費の「見える化」を体験してもらい、大変好評でした。



